

## 県教育委員会業務改善実践校モデル事業の概要

### 1 目的

学校における業務改善をさらに推進するため、業務改善実践校（モデル校）を指定し、民間コンサルティング会社の専門的な知見による伴走型の支援を実施する実践研究を行い、その成果を本県の学校へ還元する。

### 2 業務改善実践校の数

公立小・中学校から各1校，県立学校から1校

### 3 指定の期間

令和6年度（1年間）を原則とする

### 4 民間コンサルティング会社（業務委託）

先生の幸せ研究所 (<https://www.imetore.com>)

（令和5・6年度文部科学省「学校における働き方改革の推進に関する調査研究」伴走支援を担当）

### 5 伴走型の支援の主な内容及び方法

- 定期的なモデル校との打合せにおける，取組内容の検討に際しての相談や課題解決に向けての他の先進的な取組事例を踏まえた具体的な提案
- モデル校の課題や状況に応じたワークショップや研修の実施

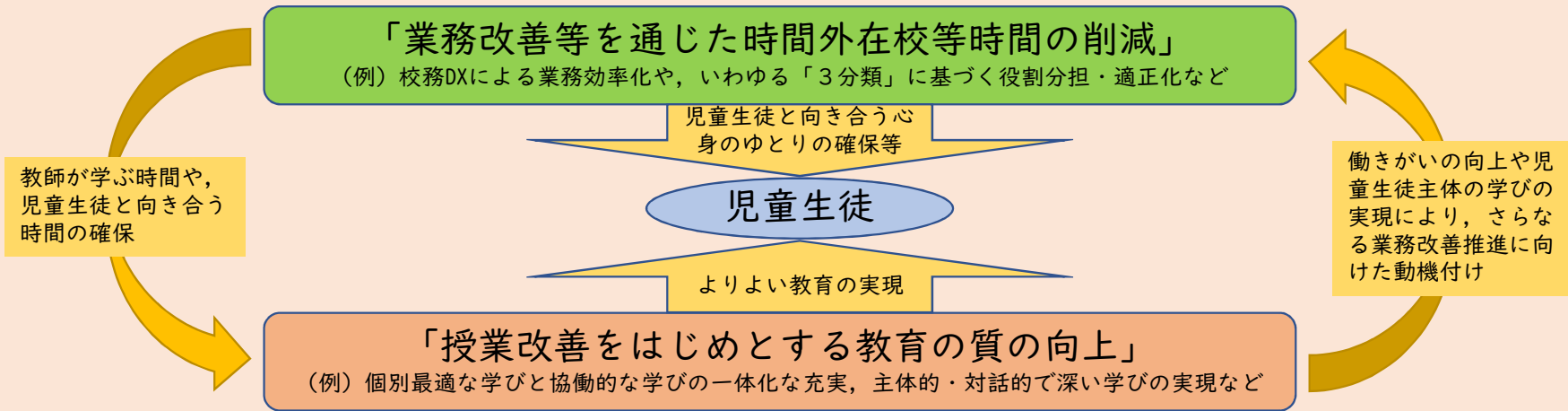
### 6 研究成果等について

県教育委員会・教育事務所・市町村教育委員会と取組の経過や成果のまとめ等を共有する。そのために，既存の研修会等で研究成果について発表する場を設定したり，主な取組状況を，随時，学校のホームページに掲載したりするなど，公開に努める。

# 令和6年度県教育委員会業務改善実践校モデル事業\_(Ver.1)

## 【本事業が目指す実践イメージ】

児童生徒に対するよりよい教育の実現に向けては、教師が教師でなければできないことに全力投球できる環境の整備が必要である。具体的には、いわゆる「3分類」に基づく役割分担や適正化をはじめとした「**各種の業務改善等を通じた時間外在校等時間の削減**」によって、教師が学ぶ時間や児童生徒と向き合う時間の確保につなげること、それによって、「**授業改善をはじめとする教育の質の向上**」がなされ、児童生徒にとってのよりよい教育が実現するとともに、教師にとっての働きがいも向上し、さらなる業務改善に向けた取組が推進されることなどの営みの往復により、持続可能な変革を実現することを目指し、学校への伴走を実施する。



スケジュール (案)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
伴走型の支援	環境確認・相談等										
	学校の改善活動←→伴走支援(学校訪問+オンライン), 進捗の把握										
										調査分析・集計	